平成13年度

韮崎市内遺跡埋蔵文化財

有無確認調査報告書

2002

韮崎市教育委員会

平成13年度

韮崎市内遺跡埋蔵文化財

有無確認調査報告書

2002

韮崎市教育委員会

序　　文

韮崎市は、甲府盆地と諏訪地方とを結ぶ要衝として、いにしえより豊かな文化を育んできた土地であります。

近年、市内では宅地建設や店舗建設が急増し、開発に先立つ遺跡の有無確認調査が毎年多数実施されております。本報告書は、そのうち平成13年度に実施した遺跡有無確認調査の報告および遺跡発掘調査概報・報告をまとめたものです。

なかでも本年度発掘調査した苗敷山山頂遺跡は、標高約1000mを測る旭山の頂きに立地し、これまでの平安時代の韮崎のイメージを超えた場所での遺跡発見となっております。遺跡南には穂見神社が隣接し、修験の山を舞台にした当時の生活の跡が生々しく残っておりました。その他各地で行われた調査の結果も含め、本年度の調査は、韮崎の歴史を新たにいろどる多大な成果を残しております。

こうした成果が本報告書という形で残されていくわけですが、さらにこの成果が活発に後世に語り継がれ、先人の足跡をたどる一助となるよう、今後更なる努力をして参りたいと考えております。

最後に、遺跡有無確認調査実施から本報告書の作成に至るまで、多大なるご理解・ご協力とご尽力を賜りました関係各機関・各位に厚く御礼申し上げます。

平成14年３月29日

韮崎市教育委員会

教育長　輿　石　　薫

例　　言

1　本書は平成13年度韮崎市において実施した、開発に伴う事前調査（遺跡の有無確認調査）の報告書である。

2　各遺跡の名称は、小字名を採用した。

3　遺跡の有無確認調査および発掘調査・整理作業の業務は、韮崎市教育委員会が行った。

4　本報告書作成にかかわる業務は韮崎市教育委員会がおこなった。報告書執筆は、第３章１項を山下孝司、第３章２項･３項を閏間俊明、それ以外は秋山圭子がおこない、編集は秋山がおこなった。

5　凡　例

①　遺跡有無確認調査実施地について、報告の都合上任意に番号を付けた。本報告書中の位置図および一覧表中の遺跡番号は、この番号で統一してある。

②　遺跡有無確認調査実施地一覧表中の項目は、以下のとおり略号を使用した。

表記番地以外の申請地数―「外」（単位筆）、遺跡の有無―「有無」、

有無確認調査実施地面積―「面積」（単位m^2）、保護協定締結―「協定」

③　地図の縮尺は、有無確認調査実施地位置図については挿図内に示した。また各遺跡の位置図については50,000分の１に統一した。

6　有無確認調査から本報告書作成に至るまで、多くの方々に多大なるご理解・ご尽力とご指導を賜った。紙面の都合上御芳名を挙げることはできないが、ここに深く感謝申し上げる次第である。

7　調査によって出土した遺物ならびに図面・写真等の記録は、韮崎市教育委員会が保管・管理している。

8　調査組織

調査主体　　韮崎市教育委員会

調査担当　　山下孝司、閏間俊明、秋山圭子（韮崎市教育委員会　教育課）

事務局　　（韮崎市教育委員会　教育課）

教育長　輿石　薫、課長　真壁静夫、室長　長野栄太、

リーダー　山下孝司、　閏間俊明、　秋山圭子

目　　次

序文
例言
目次

第１章　事業の概要 …… 1
１、平成13年度市内遺跡有無確認調査実施地　位置図 …… 1
２、平成13年度市内遺跡有無確認調査実施地　一覧 …… 2

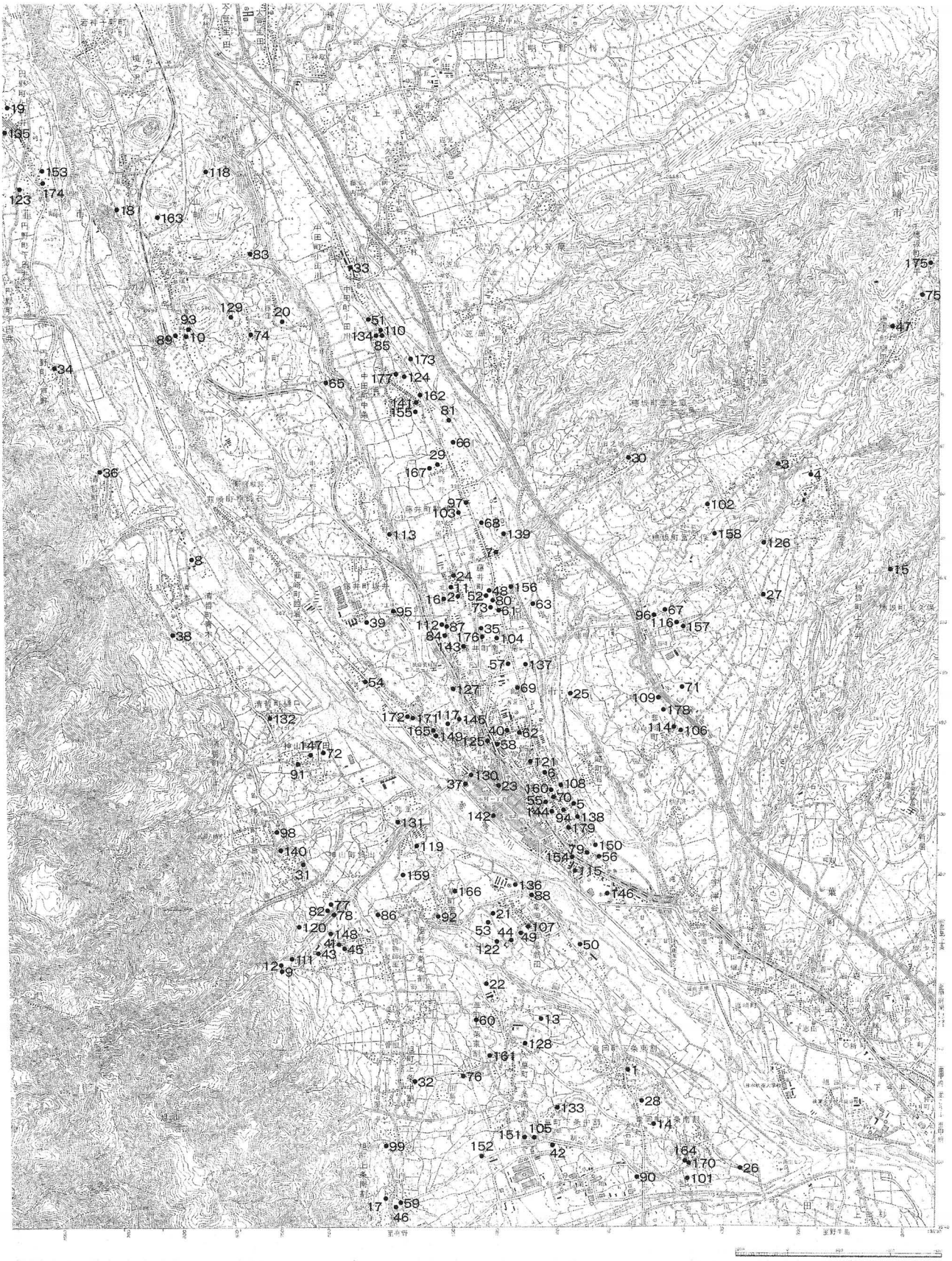
第２章　平成13年度の発掘調査　概報 …… 6
１、東畑遺跡 …… 6
２、苗敷山山頂遺跡 …… 7
３、次第窪遺跡 …… 8

第３章　平成13年度の発掘調査　報告 …… 9
１、築地遺跡 …… 9
２、能見城跡 …… 13
３、蓬田遺跡 …… 16

第４章　まとめ …… 19

第１章　事業の概要

１．平成13年度　市内遺跡有無確認調査実施地　位置図



2．　平成13年度市内遺跡有無確認調査実施地　一覧

No	所　在　地	他	面 積	開 発 目 的	有無	備　考
1	龍岡町下條東割字長塚道下575-2		191	倉庫建設	無	
2	藤井町北下條字殿田346		—	宅地建設	無	
3	穂坂町宮久保字八丁原3903-1		102	宅地建設	無	
4	穂坂町宮久保6196-1	3	—	倉庫建設	無	
5	富士見三丁目2633-2		160	宅地建設	無	
6	富士見二丁目1602		—	共同住宅	無	
7	藤井町北下條字宮木673	1	172	宅地建設	無	
8	清哲町青木字上河原1053-1	6	—	児童センター建設	無	
9	旭町上條北割字桜木2006-3	1	—	倉庫建設	無	
10	穴山町夏目3952-2		366	宅地建設	無	
11	藤井町北下條203	1	415	宅地建設	無	
12	旭町上條北割字桜木2006-1	1	150	倉庫建設	無	
13	大草町上條東割字丸山東1497		264	宅地建設	無	
14	龍岡町下條南割字北原1115-3	1	212	宅地建設	無	
15	穂坂町長久保328		483	宅地建設	無	
16	藤井町北下條字榎田85-1	4	876	共同住宅	無	
17	旭町上條南割2744	1	561	宅地建設	無	
18	穴山町次第窪5619-4		—	残土処理	無	
19	円野町上円井字上古河原2621-1	2	276	宅地建設	無	
20	穴山町稲倉2073-1		477	宅地建設	無	
21	大草町若尾字高芝原1305	4	—	葬祭場建設	無	
22	大草町上條東割字神明前5-4	1	—	宅地建設	無	
23	本町一丁目2039-4		82	店舗兼宅地建設	無	
24	藤井町北下條字後田222		667	宅地建設	無	
25	韮崎町岩下字八重堂637	4	600	宅地建設	無	
26	龍岡町下條南割1615-8		—	宅地建設	無	
27	穂坂町三ツ澤字東ノ田1522-1	1	983	宅地建設	無	
28	龍岡町下條東割字長塚道下684-1		425	宅地建設	無	
29	藤井町駒井字宮ノ前2273-1		163	宅地建設	無	
30	穂坂町三之蔵字日影平4261-1		263	宅地建設	無	
31	神山町鍋山字上小路1732-2	1	132	宅地建設	無	
32	旭町上條中割1600	2	933	宅地建設	無	
33	中田町小田川1364-1	1	85	宅地建設	無	
34	円野町入戸野29		810	宅地建設	無	
35	藤井町北下條字殿田1616-1	2	250	宅地建設	無	
36	清哲町折居1280-1		—	宅地建設	無	
37	本町一丁目4473-1		257	宅地建設	無	
38	清哲町青木2971		1125	宅地建設	無	
39	藤井町北下條字岩上2415-8	2	249	宅地建設	無	
40	若宮二丁目1373-3		322	倉庫建設	無	
41	旭町上條北割字桜木2051-18		—	宅地建設	無	
42	大草町下條中割字清水711-6	1	636	事務所建設	無	

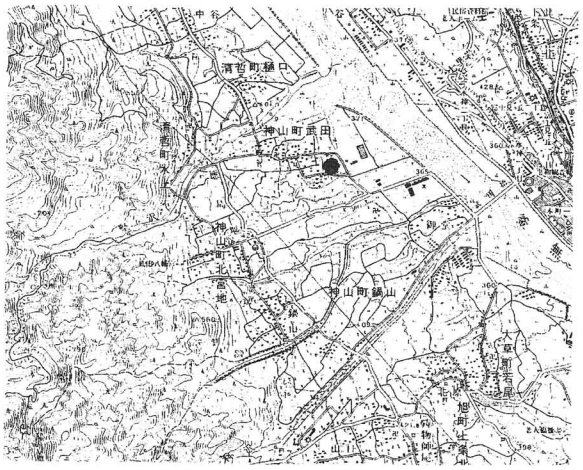
No	所　在　地	他	面積	開発目的	有無	備　考
43	旭町上條北割字桜木2028-6		491	宅地建設	無	
44	大草町若尾1252		365	宅地建設	無	
45	旭町上條北割字桜木2049-1		777	宅地建設	無	
46	旭町上條南割字樫山2689		256	宅地建設	無	
47	穂坂町柳平1310	1	—	宅地兼倉庫建設	無	
48	藤井町北下條1512-1		—	店舗建設	無	
49	大草町若尾字竹ノ下638-2		—	宅地建設	無	
50	龍岡町若尾新田824		258	宅地建設	無	
51	中田町小田川字下木戸170-1		89	宅地建設	無	
52	藤井町北下條字下横屋1568-3		255	宅地建設	無	
53	大草町若尾字大坪1171		448	宅地建設	無	
54	一ツ谷1872-1	2	—	広告塔建設	無	
55	富士見三丁目2457-9		497	宅地建設	無	
56	中島二丁目2840-5	1	297	宅地建設	無	
57	藤井町南下條350-1		595	店舗建設	無	
58	若宮一丁目1383-4	1	129	店舗兼宅地建設	無	
59	旭町上條南割字樫山2732-1	2	576	宅地建設	無	
60	大草町上條東割571-3	1	—	宅地建設	無	
61	藤井町北下條字下横屋1483	2	—	店舗建設	無	
62	若宮二丁目1368-5	2	—	宅地建設	無	
63	藤井町北下條字建石島955-3		221	宅地建設	無	
64	中田町中條字丸山4328-1	1	783	宅地建設	無	
65	中田町中條字藤塚2857	2	—	宅地建設	無	
66	中田町中條字下木戸1017-4	3	—	宅地建設	無	
67	穂坂町宮久保702-1	1	—	倉庫建設	無	
68	藤井町駒井2739-1	3	943	倉庫建設	無	
69	若宮三丁目903-5		395	宅地建設	無	
70	富士見二丁目1842-1		162	宅地建設	無	
71	穂坂町三ツ澤字中坊来石737-1	2	2335	宅地建設	無	
72	神山町武田字下北原689-1		—	宅地建設	無	
73	藤井町北下條字下横屋1568-4		344	宅地建設	無	
74	穴山町石水2668	1	616	宅地建設	無	
75	穂坂町柳平字久保ノ後636	3	316	宅地建設	無	
76	旭町上條中割字穴田506-1		—	共同住宅建設	無	
77	旭町上條北割1982-22	1	250	宅地建設	無	
78	旭町上條北割字桜木1982-29		—	宅地建設	無	
79	中島一丁目2755-1	1	—	宅地建設	無	
80	藤井町北下條字下横屋1500-1	1	496	店舗建設	無	
81	藤井町駒井字砂宮神3314-3		—	宅地建設	無	
82	旭町上條北割1982-30		—	宅地建設	無	
83	穴山町宮ノ窪4723	2	1144	宅地建設	無	
84	藤井町北下條字山本1824-8	1	252	宅地建設	無	
85	中田町小田川字下河原1393-14		245	宅地建設	無	
86	旭町上條北割字金山1291		585	宅地建設	無	
87	藤井町北下條字山本1824-6		214	宅地建設	無	
88	大草町若尾字東田359-1	6	—	スポーツ施設建設	無	

No	所　在　地	他	面積	開発目的	有無	備　考
89	穴山町夏目4017		163	宅地建設	無	
90	龍岡町下條南割字西原334-4		653	店舗兼宅地建設	無	
91	神山町武田字新田297-3		140	消防施設建設	無	
92	大草町若尾887		—	宅地建設	無	
93	穴山町夏目3941-1		—	宅地建設	無	
94	富士見三丁目2596-1		98	宅地建設	無	
95	藤井町北下條字高松2632-1		597	宅地建設	無	
96	穂坂町宮久保字三百水768-1		399	宅地建設	無	
97	藤井町駒井字宮ノ前2644-3		295	宅地建設	無	
98	神山町北宮地966-3		422	倉庫建設	無	
99	旭町上條南割2288	1	772	宅地建設	無	
100	韮崎町岩下字前田1307-1		284	宅地建設	無	
101	龍岡町下條南割字宮本142-1		—	公民館建設	無	
102	穂坂町宮久保字芝原畑4237	5	—	公共施設建設	無	
103	藤井町駒井字宮ノ前2462-1		104	公民館建設	無	
104	藤井町南下條字水無318-2		—	宅地建設	無	
105	大草町下條西割字下山神935-2		942	事務所建設	無	
106	韮崎町上ノ山字立石911-1		300	宅地建設	無	
107	龍岡町若尾新田276		—	宅地建設	無	
108	富士見二丁目1812-1	1	834	建物建設	無	
109	韮崎町上ノ山字外輪原3675-1		500	工場建設	無	
110	中田町小田川字下河原1393-13		245	宅地建設	無	
111	旭町上條北割字桜木2002-21		197	宅地建設	無	
112	藤井町北下條1824-7		214	宅地建設	無	
113	藤井町駒井字西御門1036		994	宅地建設	無	
114	韮崎町上ノ山926		1705	倉庫建設	無	
115	本町三丁目4165	1	918	倉庫建設	無	
116	穂坂町宮久保字坊来石507	1	967	倉庫建設	無	
117	富士見ヶ丘二丁目259-3		122	宅地建設	無	
118	穴山町鷲山7238-29		—	宅地建設	無	
119	大草町若尾18		—	共同住宅建設	無	
120	旭町上條北割字桜木1990-20		518	宅地建設	無	
121	富士見一丁目1149-2		245	宅地建設	無	
122	大草町若尾1700		485	宅地建設	無	
123	円野町上円井字下河原1824-4		—	宅地建設	無	
124	中田町中條字宿1285	1	194	集会所建設	無	
125	若宮一丁目417-1	1	626	宅地建設	無	
126	穂坂町宮久保117	1	243	宅地建設	無	
127	藤井町南下條998		923	共同住宅建設	無	
128	大草町上條東割字羽根811		—	宅地建設	無	
129	穴山町石水3182-3	1	811	宅地建設	無	
130	本町一丁目4572-3		311	宅地建設	無	
131	旭町上條北割字夏目原1837-107		247	宅地建設	無	
132	清哲町樋口字御崎原689-1		—	宅地建設	無	
133	大草町下條中割字前田296-2	1	354	宅地建設	無	
134	中田町小田川字下河原1393-12		—	宅地建設	無	

No	所　在　地	他	面積	開発目的	有無	備　考
135	円野町上円井1139		391	宅地建設	無	
136	大草町若尾字本滝173-1	1	574	共同住宅建設	無	
137	藤井町南下條字冷田163-1	7	—	店舗建設	無	
138	中島一丁目2069-3	1	215	宅地建設	無	
139	藤井町駒井字砂宮神3471-3		229	宅地建設	無	
140	神山町鍋山字古山寺1658-1		1179	宅地建設	無	
141	中田町中條字下木戸1134-2	1	297	宅地建設	無	
142	本町一丁目4413-2		295	宅地建設	無	
143	藤井町南下條字山影563-2		212	宅地建設	無	
144	富士見三丁目2629-2		116	宅地建設	無	
145	富士見ヶ丘二丁目210-3		660	宅地建設	無	
146	本町四丁目3940-2		791	車庫建設	無	
147	神山町武田字下北原687-1		346	宅地建設	無	
148	旭町上條北割字桜木1990-14		188	宅地建設	無	
149	水神二丁目4815-9		224	宅地建設	無	
150	中島一丁目2753-4	1	—	宅地建設	無	
151	大草町下條西割字下山神937		632	工場建設	無	
152	旭町上條南割字山ノ神585-1		953	倉庫建設	無	
153	円野町上円井1908		763	宅地建設	無	
154	本町三丁目2341-9	1	330	店舗建設	無	
155	中田町中條字下木戸1194-7	2	92	宅地建設	無	
156	藤井町北下條字枇杷塚1251-1		302	宅地建設	無	
157	穂坂町宮久保字坊来石471-3		353	宅地建設	無	
158	穂坂町宮久保字夏狩5205-1・祝神平5219	3	40	廃水施設建設	無	
159	神山町鍋山1696		553	宅地建設	無	
160	富士見二丁目1835-1	1	65	宅地建設	無	
161	大草町上條東割763		176	宅地建設	無	
162	中田町中條字後地1458-1		—	宅地建設	無	
163	穴山町次第窪5162		161	宅地建設	無	
164	龍岡町下條南割字真葛1569-1		264	宅地建設	無	
165	水神一丁目4810-1	2	150	工場兼宅地建設	無	
166	大草町若尾字上手屋敷851		529	宅地建替	無	
167	藤井町駒井字宮ノ前2522		—	宅地建設	無	
168	神山町武田字東畑564		260	工場建設	有	東畑遺跡（協定）
169	穂坂町宮久保字八丁原4118-1		311	作業場建設	無	
170	龍岡町下條南割字真葛1569-2		399	宅地建設	無	
171	水神二丁目4979-4	2	334	宅地建設	無	
172	水神二丁目4979-3	2	729	宅地建設	無	
173	中田町中條字中河原1679-2		477	店舗建設	無	
174	円野町上円井字東河原1862-3	3	724	店舗建設	無	
175	穂坂町柳平2262-3		505	宅地建設	無	
176	藤井町北下條字殿田1607-4	1	110	宅地建設	無	
177	中田町中條字中河原1756-2		306	宅地建設	無	
178	上ノ山字北堀3644-16		—	宅地建設	無	
179	富士見三丁目2580-1	1	—	宅地建設	無	

第２章　平成13年度の発掘調査　概報

１．東畑遺跡



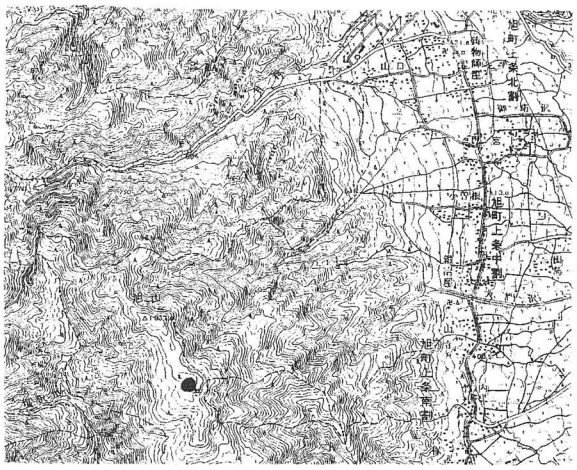
所　在　地：神山町武田字東畑564番地
調 査 原 因：工場建替
調 査 期 間：平成13年４月10日
敷 地 面 積：260m²
備　　考：有無確認調査・保護協定書締結

遺跡の概要

本遺跡は、開発に先立つ遺跡の有無確認調査の際、遺物が出土したことで確認された。そこでこの開発地について、工事内容などを確認した上で地権者・建設業者・韮崎市教育委員会で協議し、遺跡の保護協定を締結した。

遺跡の北西には武田信義館跡がある。本遺跡の発見の契機となったのも、平安時代末～中世の土師器の出土であった。おそらく当時、武田信義館跡周辺には集落が存在した可能性が高く、本遺跡はこの集落の一部であると考えられよう。中世の集落景観は、史資料の少なさから復元が難しいとされる。しかしこうした事例を少しづつ蓄積していくことで、復元が可能となっていくとおもわれる。

2．苗敷山山頂遺跡



所　在　地：旭町上條南割字三次山
調査原因：林道建設
調査期間：平成13年７月12日～８月29日
調査面積：150m²
備　　考：発掘調査

遺跡の概要

苗敷山は南アルプス連峰の東端の山で、旭山とも呼ばれる。標高は1037mをはかる。標高約1000m付近に穂見神社があり、遺跡は神社裏の平坦地にある。

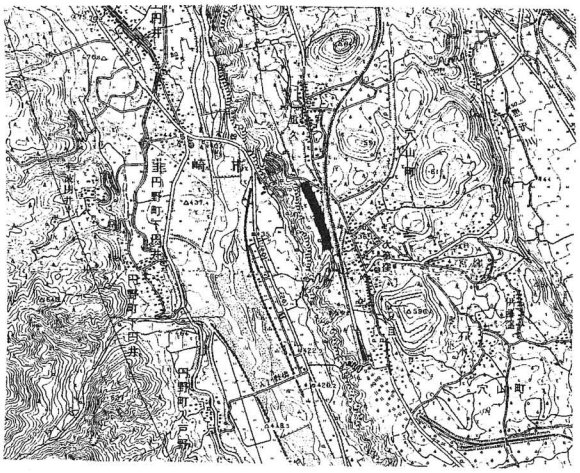
穂見神社は古くより山岳信仰の拠点であったとされ、現在でもふもとの集落に住む人びとの信仰は厚い。

市の文化財に指定されている社殿は拝殿・幣殿・本殿をもつ権現造りで、江戸時代中期の建築と伝わる。また本殿には三面六臂をもつ三宝荒神像がある。神社南には、石段で区画された平坦地がいくつもあり、別当寺の宝生寺跡地とされる。神社周辺には、五輪塔や宝篋印塔などの石造物が多くみうけられ、この地が古くからの信仰の対象地であったことがうかがわれる。一帯は、県天然記念物のアスナロと市天然記念物のコウヤマキの巨木が立ち、静けさと共にこの山の歴史を守っている。

発掘調査部分は、穂見神社裏の平坦地の林道を切り通した法面にあたる。調査では、平安時代の竪穴式住居跡が重なりあって発見された。調査面積が狭く、集落の平面的な広がりをつかむことは難しかったが、竪穴式住居跡が重複して検出されたことから、当時の人々がこの地を選び、住み続けたことがわかる。神社の直下には湧水がある。この湧水が、神社周辺の集落の水源であったことは間違いないだろう。

この集落の人々が、穂見神社に関係のある集団だったのか、修験道に関係する集団だったのか。今後本格的な整理作業を行なうなかで、穂見神社も含めた集落の景観や、生活の様相を解明することができるだろう。

3．次第窪遺跡



所　在　地：穴山町次第窪5315ほか
調 査 原 因：県道穴山バイパス建設
調 査 期 間：平成13年７月25日～11月28日
調 査 面 積：約3000m²
備　　考：発掘調査

遺跡の概要

本遺跡は、八ヶ岳の岩屑流である七里岩の西端崖線近くにある。遺跡から崖線まではわずかに50mほどで、その西は比高差約90mの急崖をへて釜無川に至る。遺跡の南方には能見城跡、さらには新府城跡がある。

南北に長い調査区の南・東脇には谷があり、調査区内は、平坦地から谷部にかけての地形変化がみられる。

調査区北部分は平坦な地形となっており、標高は約528mをはかる。地元の方々の話によると、この一帯では、昭和34年の台風で甚大な被害を受けた釜無川流域の復興の為に、大量の土砂を採取・搬出しており、本来の地形はとどめていないようだ。周辺には旧地表面と思われる高まりが残る場所もある。また、調査区南部分はかつて流路だったようで、現在も南脇に残る谷に向かいわずかに傾斜する。地山直上の暗灰褐色土層では遺物が若干出土したが、遺構は確認されなかった。南端部は、水路に向かってさらに急激に落ち込んでいく。

調査区中央部は、谷に向かう緩やかな傾斜地になっている。ここには今回確認した遺構は、いずれもこの調査区中央部の黒灰色土層中で確認されている。主な遺構は、平安時代の竪穴式住居跡５軒、土坑13基、柱穴196基、集石土坑３基、掘立柱建物跡２棟、溝５条である。柱穴の多くは、径や覆土の色調等から中世期の遺構であると思われる。なかには深さが40～50cmほどで平面プランが正方形の柱穴もいくつかあり、興味深い。

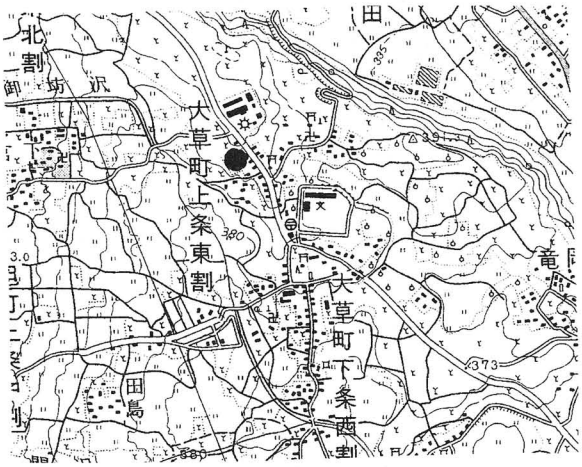
調査で確認された竪穴住居跡のうち２号住居跡は、貼り床が２面あり、同地点で建て替えている。新しい住居跡は、床面３cm上に炭化材が散在し、焼失住居跡であったことがうかがえる。

溝状遺構は５条確認された。いずれもおおよそ南北方向に伸びる。１号溝と２号溝は、１mほど離れて平行に走り、２号住居跡よりも新しい。覆土中層には直径20cmほどの礫が入っている。これに対し、３・４・５号溝は覆土上～中層に礫が詰まっている。いずれも出土遺物は少ないが、３号溝からは磨製石鏃の欠損品が出土している。

１号集石は、直径約130cm、深さ約80cmの円形土坑上層に人頭大の礫が入れられ、壁・底面には扁平に割られた大型礫（約20～50cm四方）が貼りつけられたように敷かれていた。上層の礫には著しく焼けた跡は残っていないが、壁面・底面の扁平礫はいずれも赤く焼けており、焼土と炭化物もわずかに確認された。この二つの礫層の間には、粘性のやや高い漆黒土層が確認された。骨粉等は確認されなかったが、火葬あるいは埋葬に関する遺構の可能性があろう。

第３章　平成13年度の発掘調査　報告

１．築地遺跡（ついじいせき）



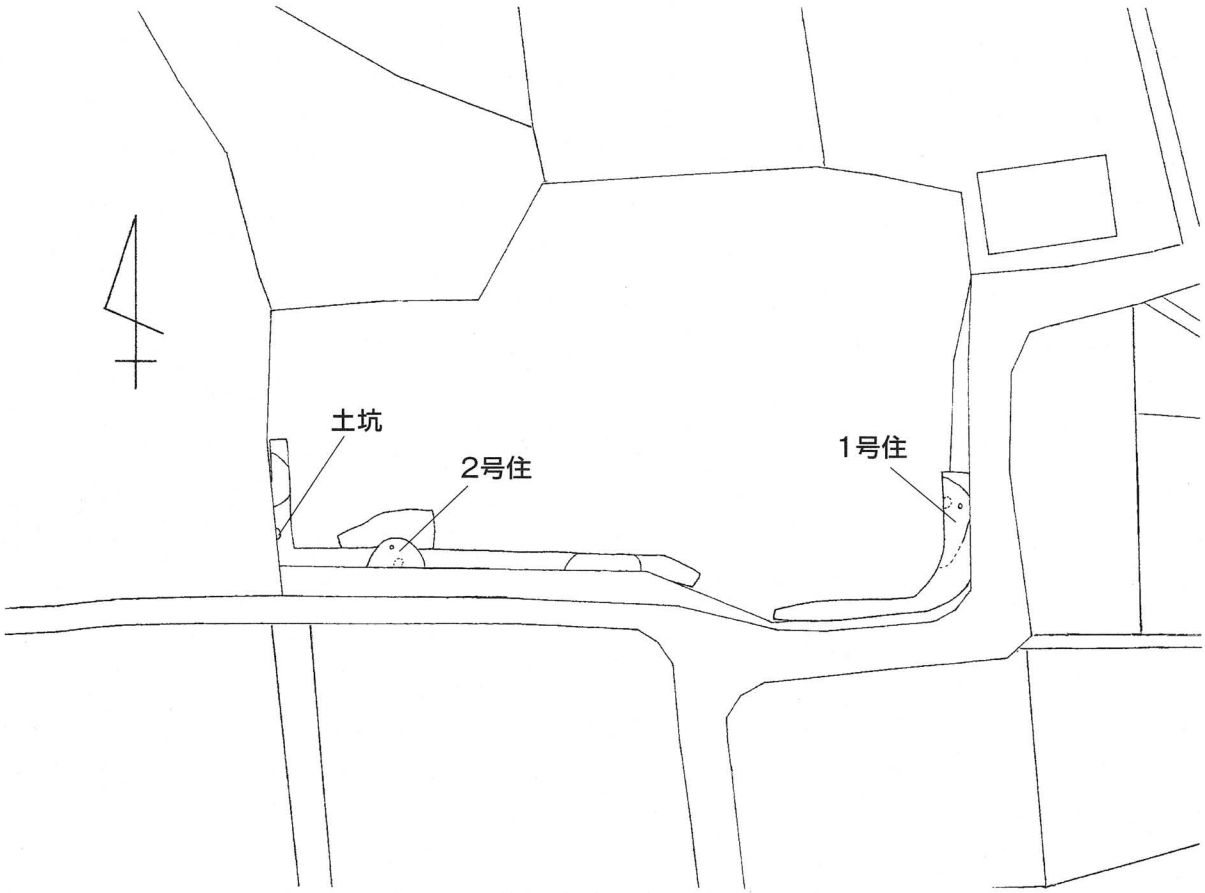
所 在 地：韮崎市旭町上條北割字築地504番地
調査原因：宅地境界壁建設
調査期間：平成13年７月30日～８月３日
調査面積：約100m²
担 当 者：山下孝司

１　遺跡立地

築地遺跡は、釜無川右岸段丘上に所在した。遺跡のある土地は段丘上に舌状に北から南にかけて台地状に張り出しており、東側は段丘崖で西側は沢地形となり割羽沢川が西から南流している。今回の調査地点は台地南縁の南に緩やかに傾斜した場所で、標高は約395ｍである。

２　調査経緯

土地所有者より敷地内の擁壁を建設するために、埋蔵文化財の有無確認依頼が韮崎市教育委員会に平成12年５月24日に提出された。これを受けて市教育委員会では工事に先だって遺跡の有無確認を行ったところ、遺物が出土し遺構が確認された。これにより協議をしたところ、地権者より擁壁だけの工事で建物は当面建設しない旨の返事が得られたので、擁壁建設部分の遺構が確認された約100m²の範囲で発掘調査を行い記録に留めることとし、平成13年７月末から１週間の予定で調査を実施することにした。



第１図　築地遺跡全体図（1／500）

３　遺構と遺物

確認された遺構は、竪穴が４基、土坑１基である。竪穴の内２基は工事が遺構面まで及ばずに保護できるので、残りの２基と土坑の、深掘りによって壊される部分の調査を実施した。

竪穴１号住居は、調査区東端にあり、推定で東西４ｍ、南北５ｍ程の規模があると思われるが、南半分は削平されてしまっており不明であり、北東側の一区画のみの調査であった。床面はほぼ平坦で、確認面からの深さは10cm前後。炉は北よりの所にあり、枕石をともなう。柱穴は１ヶ所に検出された。（第２図）

遺物は、埋没土中から破片が出土している（第３図）。１・２は櫛描波状文の施される甕破片。３・４・５は刷毛目のみられる甕の破片。６・７・８は壷の胴部破片で６・７には刷毛目痕がみられる。９は比較的幅広の有段口縁で口唇部に縄文がみられる。10は平安時代以降の坏の口縁部と思われる。流れ込みであろう。10以外は、弥生時代後期の所産である。

竪穴２号住居は、西側にあり深掘りにより部分的に削平されてしまったが、推定で東西3.5ｍの規模で、南半分は調査区域外であった。床面はほぼ平坦で、断面観察では深さは20～30cm前後の竪穴となっている。炉は北よりの所にあり、柱穴は１ヶ所検出された。（第４図）

遺物は、埋没土中から破片が出土している（第５図）。１は口唇に刻み目のめぐる甕の口縁部破片。２・３・４は刷毛目のみられる甕。５は大型の壷の胴部破片と思われる。いずれも、弥生時代後期のものであろう。

土坑は西端にあり、直径約1.1ｍの円形で深さ60cm、西半分は調査区域外であった（第６図）。遺物は上層から弥生土器片が出土したが、図示するにはいたらず、本土坑に伴うものかどうか不明である。

このほか、遺構外からは、縄文時代中期後半後葉の土器片が採集された（第７図）。

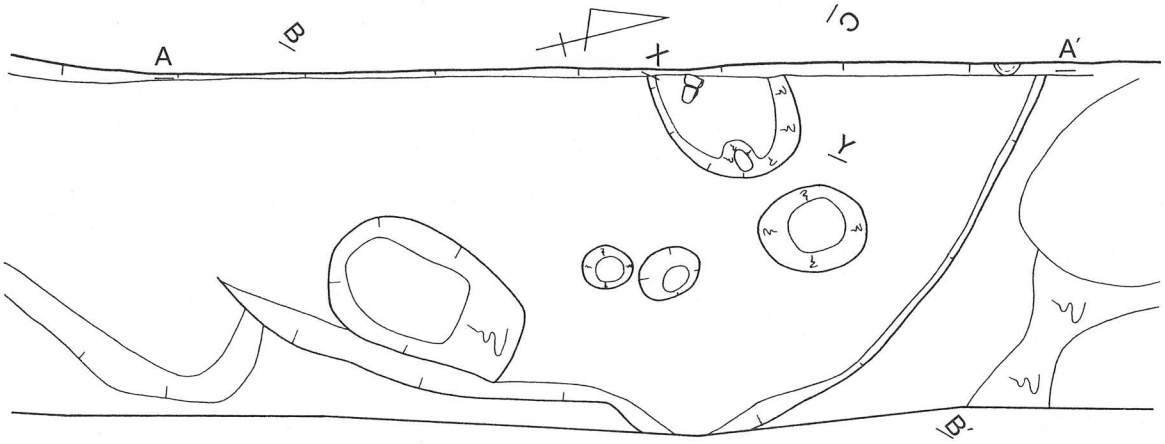
４　まとめ

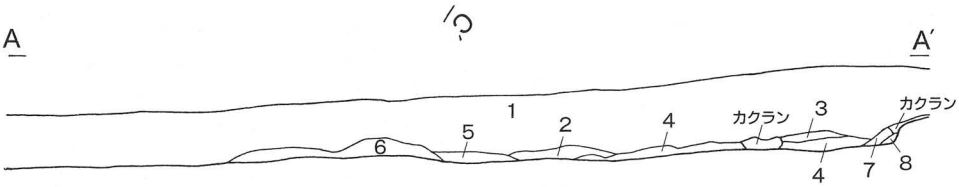
本遺跡周辺で調査された遺跡は、久保屋敷遺跡（山梨県教育委員会『久保屋敷遺跡』1984年）と、大輪寺東遺跡（山梨県教育委員会『大輪寺東遺跡』1990年）と、羽根前遺跡（韮崎市教育委員会ほか『羽根前遺跡』1999年）がある。久保屋敷遺跡は本遺跡から北西に約900ｍ離れたところに所在し、本遺跡と同様の台地上に形成された遺跡で古墳時代初頭の住居が発掘されている。大輪寺東遺跡は、沢を挟んで西に約500ｍ離れたところに所在し、中世の遺構が確認された。羽根前遺跡は南東に約500ｍ離れた場所にあり、縄文時代の土器片・石器片のほか平安時代の土師器・須恵器、中世のカワラケなどが出土している。

築地遺跡は縄文時代の遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、その場所は今回の調査地点よりも北西側であるらしい。今回の調査でも縄文時代の土器片が採集されており、久保屋敷遺跡においても縄文時代中期後半の埋甕などが発掘されており、縄文時代の集落遺跡はかなり広がるものと思われる。また、弥生時代に関しても、久保屋敷遺跡では中期の条痕文土器がみられ、当該地域に比較的弥生時代の古い段階から人々が住んでいたことが理解できる。さらに、築地遺跡につづく古墳時代初頭の住居が発見されていることからは、縄文・弥生時代ばかりではなく、本地域が古墳時代へと着実に発展していたことがうかがえる。

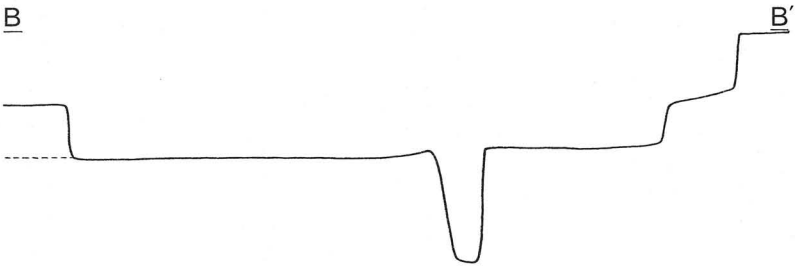
弥生時代は水田稲作が行われた時代であり、人々は定住的な生活を営んでいたと考えられている。築地遺跡に集落をつくり生活をしていた人々の生業＝水田稲作の場は、遺跡西側に広がる沢地が候補にあげられる。南アルプス前衛の山々から流れ出した水は、山裾から台地縁辺にむかい遺跡西側の沢地に集まり、この水を利用して水田稲作が行われていたと推定することは可能であろう。

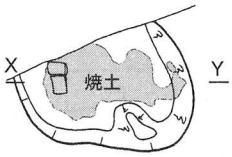
今回の調査は弥生時代の生活を考究するうえで重要であった。

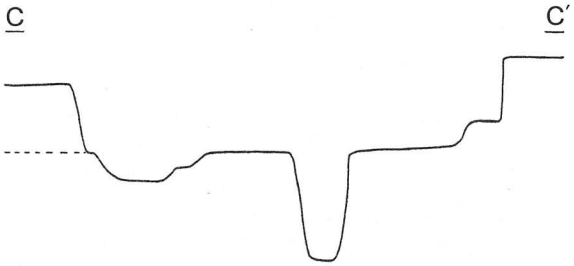




1　耕作土
2　暗褐色土　（暗褐色土・若干の焼土混入）
3　暗褐色土　（暗黄褐色土・若干の炭化物混入）
4　黒褐色土　（黄褐色土・焼土・炭混入）
5　暗黄褐色土（炭化物含む）
6　暗褐色土　（暗黄褐色土・焼土・炭化物を含む）
7　暗褐色土　（黒褐色土を含む）
8　黄褐色土

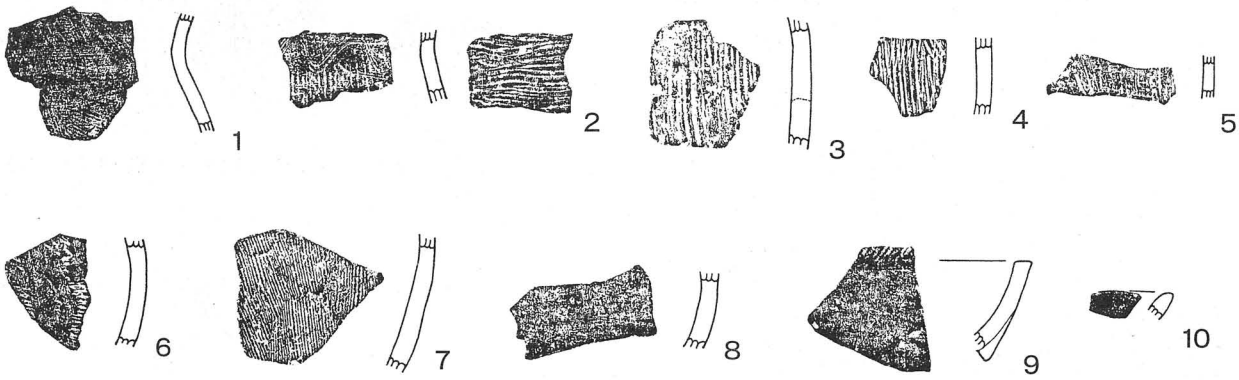




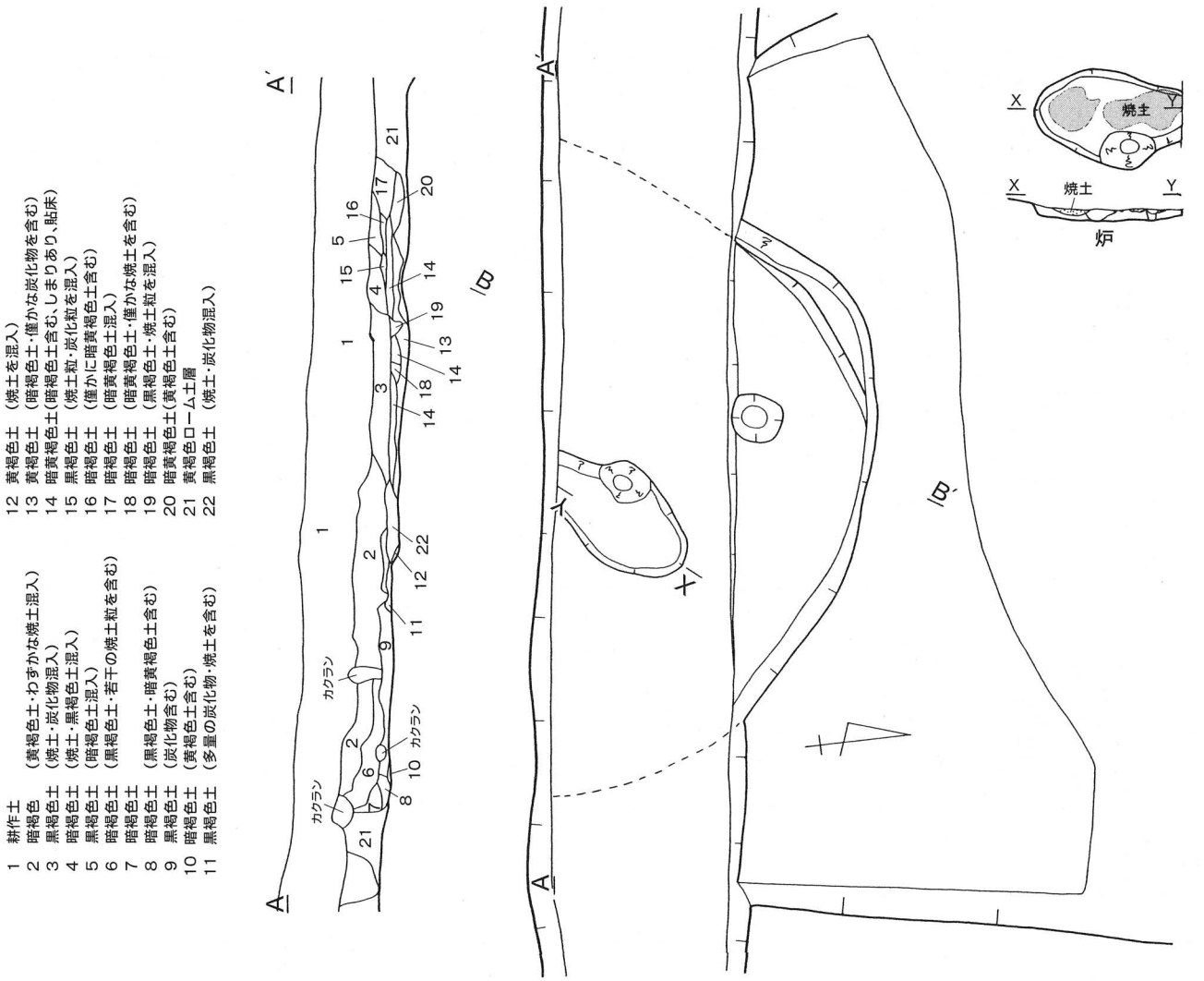


炉

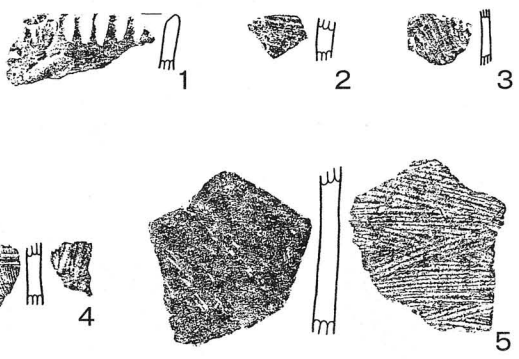
第２図　１号住居跡平・断面図（1／40）



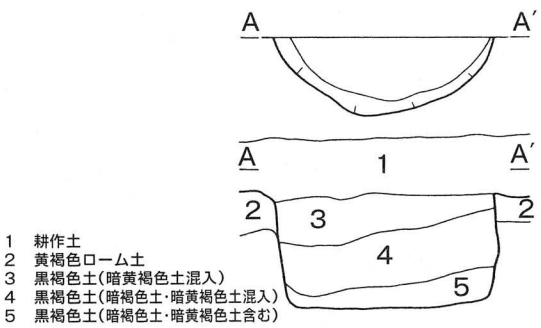
第３図　１号住居跡出土遺物（1／3）



第４図　２号住居跡平・断面図（1／40）



第５図　２号住居跡出土遺物（1／3）

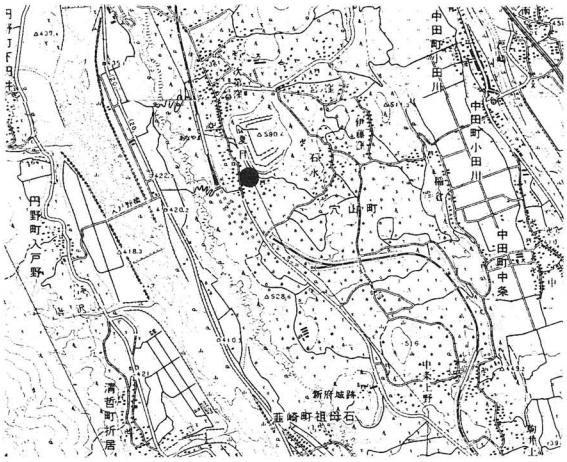


第６図　１号土坑平・断面図（1／40）

第７図　遺構外出土遺物（1／3）

2．能見城跡

所　在　地：韮崎市穴山町夏目4059-1･4062
調 査 原 因：個人住宅建設
調 査 期 間：平成12年７月３日～10日
調 査 面 積：100m²
調 査 主 任：閏間俊明
調査参加者：阿部由美子・岩下雅美



1　調査概要

能見城跡内の土塁部分が対象となったが、建設設計では掘削されないことから土塁の測量調査を実施することとし、地権者・建設業者・韮崎市教育委員会の３者合意の上で保存協定を締結し、永く後世に現状を伝えることとした。

2　調査内容

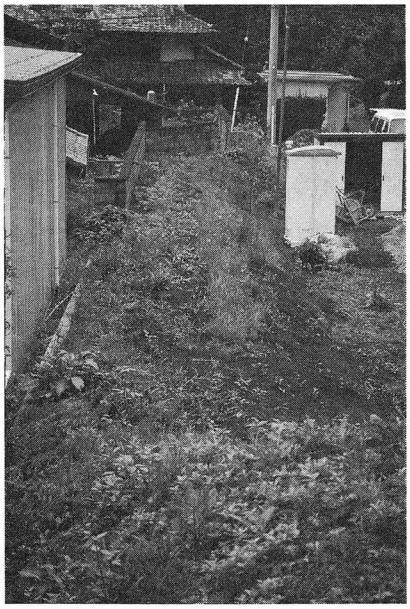
遺跡の概要は当教育委員会から既刊の『能見城跡』などを参照していただき、調査対象の土塁に関して報告を以下におこなう。

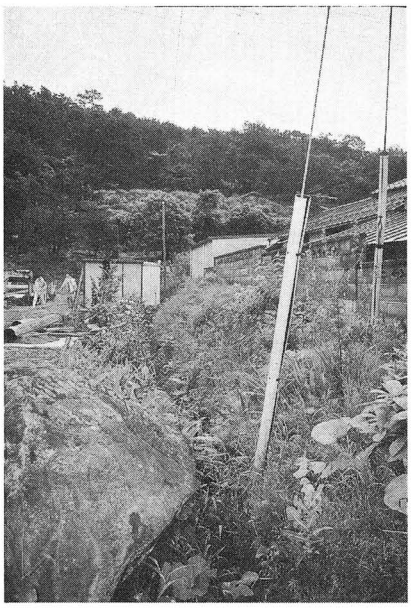
本調査区は能見城山の西斜面の帯曲輪から西側に延びる土塁であり、県道17号線を挟んで反対側には食い違いながら土塁があり、虎口を形成していた可能性が高い。

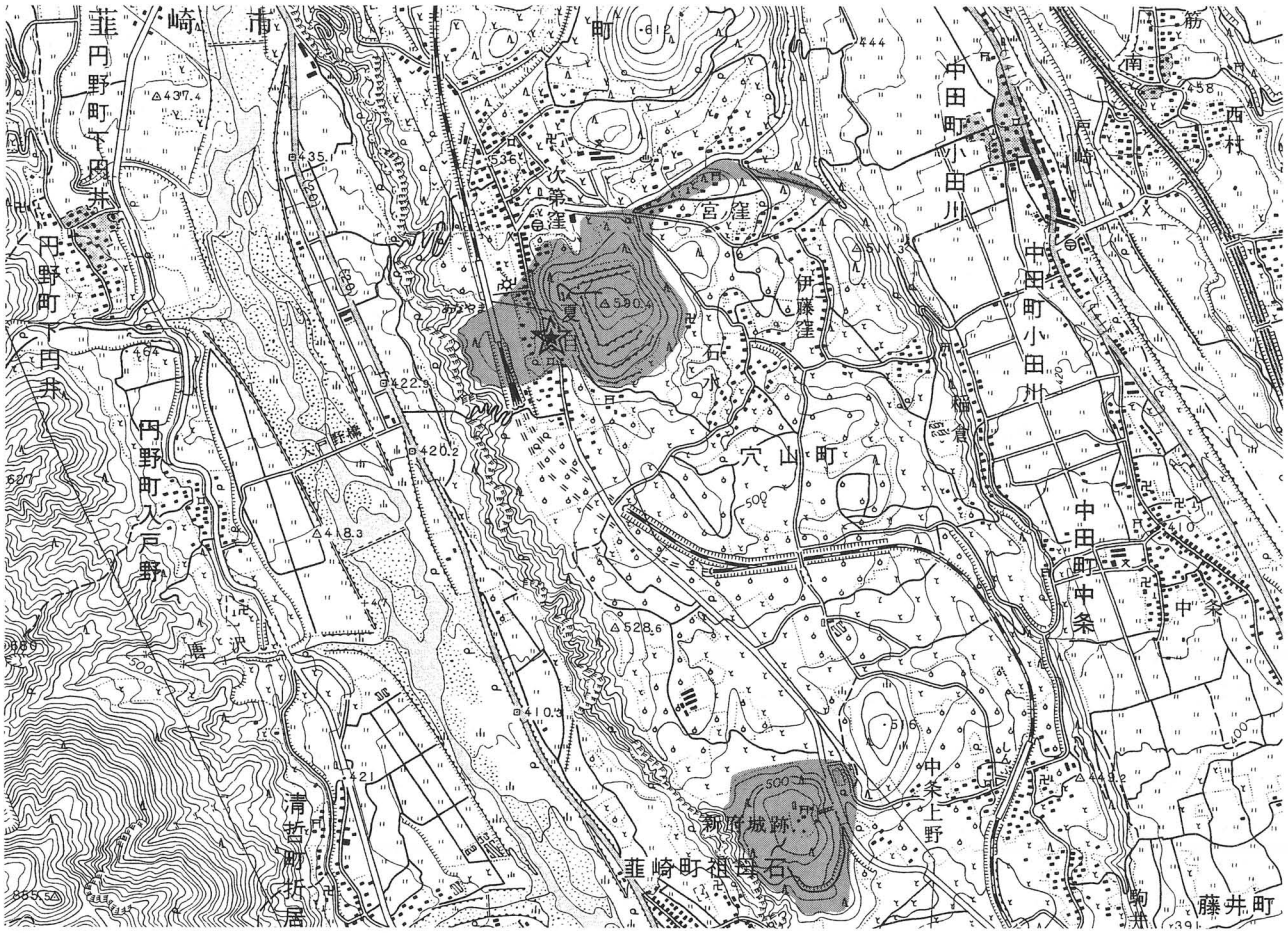
斜面からの土塁の始まりから県道までは長さ約50m、幅は上面で約２m、裾部で約６m、高さ約１mの規模である。現状での勾配は20～30度と比較的緩傾斜である。

参考文献

山下孝司1991「中世甲斐国における城郭の歴史的立地ー能見城防塁を例としてー」『戦国大名武田氏』
山下孝司1996『能見城跡』韮崎市教育委員会
閏間俊明2001「能見城跡」『武田系城郭研究の最前線』山梨県考古学協会



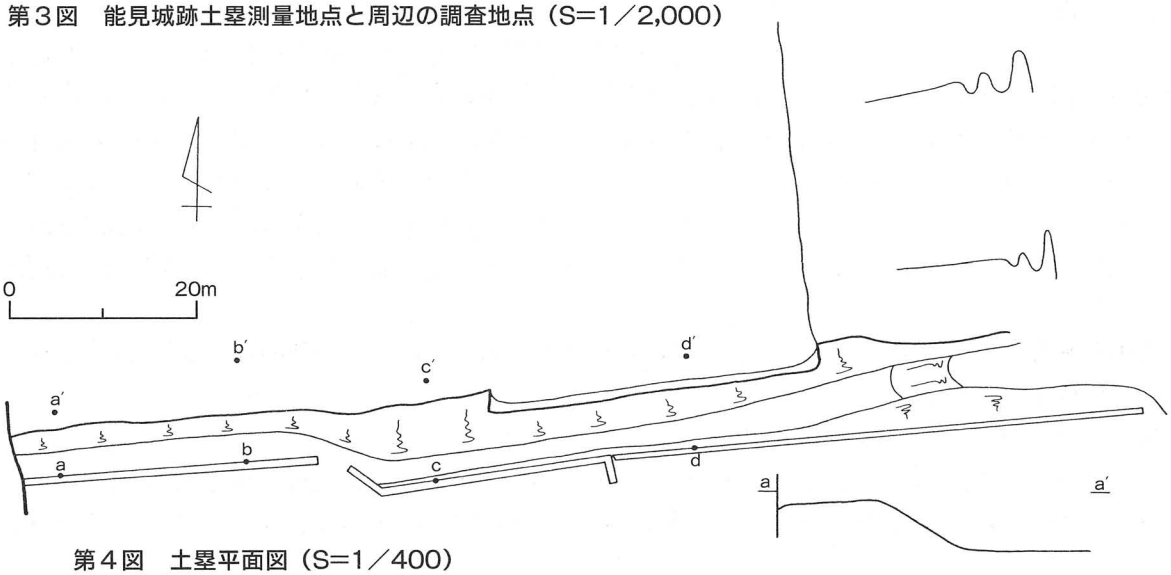




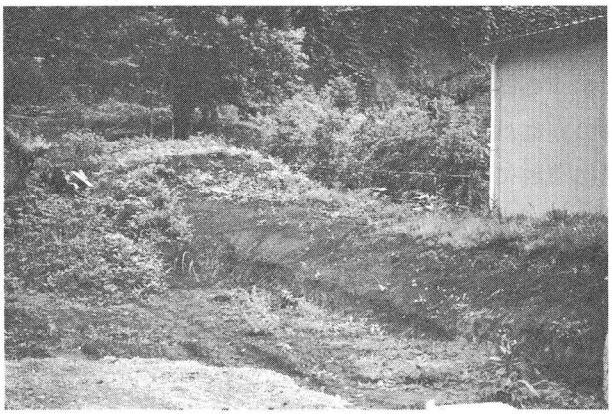
第１図　能見城跡及び新府城跡位置図（S=1／25,000）

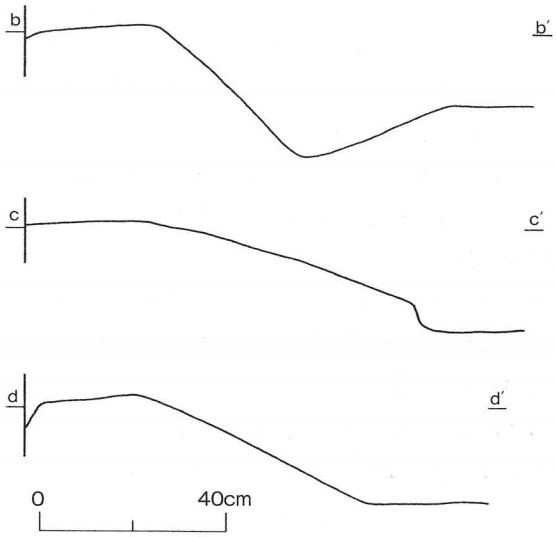
第２図　能見城跡土塁測量範囲（S=1／2,500）

第３図　能見城跡土塁測量地点と周辺の調査地点（S=1／2,000）



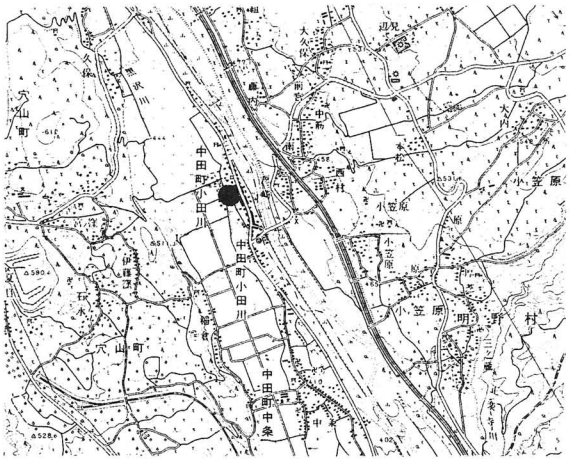
第４図　土塁平面図（S=1／400）





第５図　土塁断面図（S=1／80）

３．蓬田遺跡



所　在　地：韮崎市中田町小田川字蓬田647-4
調 査 原 因：個人住宅建設
調 査 期 間：平成13年３月30日～４月３日
調 査 面 積：45m²
調 査 主 任：閏間俊明
調査参加者：阿部由美子・深沢真知子

１　調査概要

蓬田遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地であることから試掘を実施し、住宅建設により破壊の免れない浄化槽設置予定地を本調査区として調査を実施した。調査区以外は地権者・韮崎市教育委員会の２者合意の上で保存協定を締結し、永く後世に現状を伝えることとした。

２　調査内容

調査は2.5m×1.8mの範囲でおこなった。その結果、竪穴住居跡２軒、溝跡１条、ピット１基を確認した。

１号竪穴住居跡：竪穴北壁の一部とカマドを確認したが、竪穴規模は不明である。カマドは両袖に構築材として粘土を使用したものであるが上部構造は残存していない。60cm程度の不整形な円形の浅い掘り込みのほぼ中央に深さ15cm程度の小ピットがある。炊き出し部にあたる南側にも浅い円形の掘り込みを認めることができる。なお、中央部の小ピット上面には地山類似土が堆積し、内部には被熱の痕跡は認められず、カマド使用前に埋まっていたものと考えられる。遺物は、須恵器坏蓋・須恵器坏・土師器坏・須恵器転用硯が出土した。

２号竪穴住居跡：１号竪穴住居以前に構築された住居跡である。西壁の一部のみの確認であり規模等の詳細については不明である。

遺物は、須恵器坏・甕・土師器坏が出土している。

溝：調査区内でほぼ直角に屈曲する、幅約30cmの溝である。溝跡内からの遺物の出土はない。

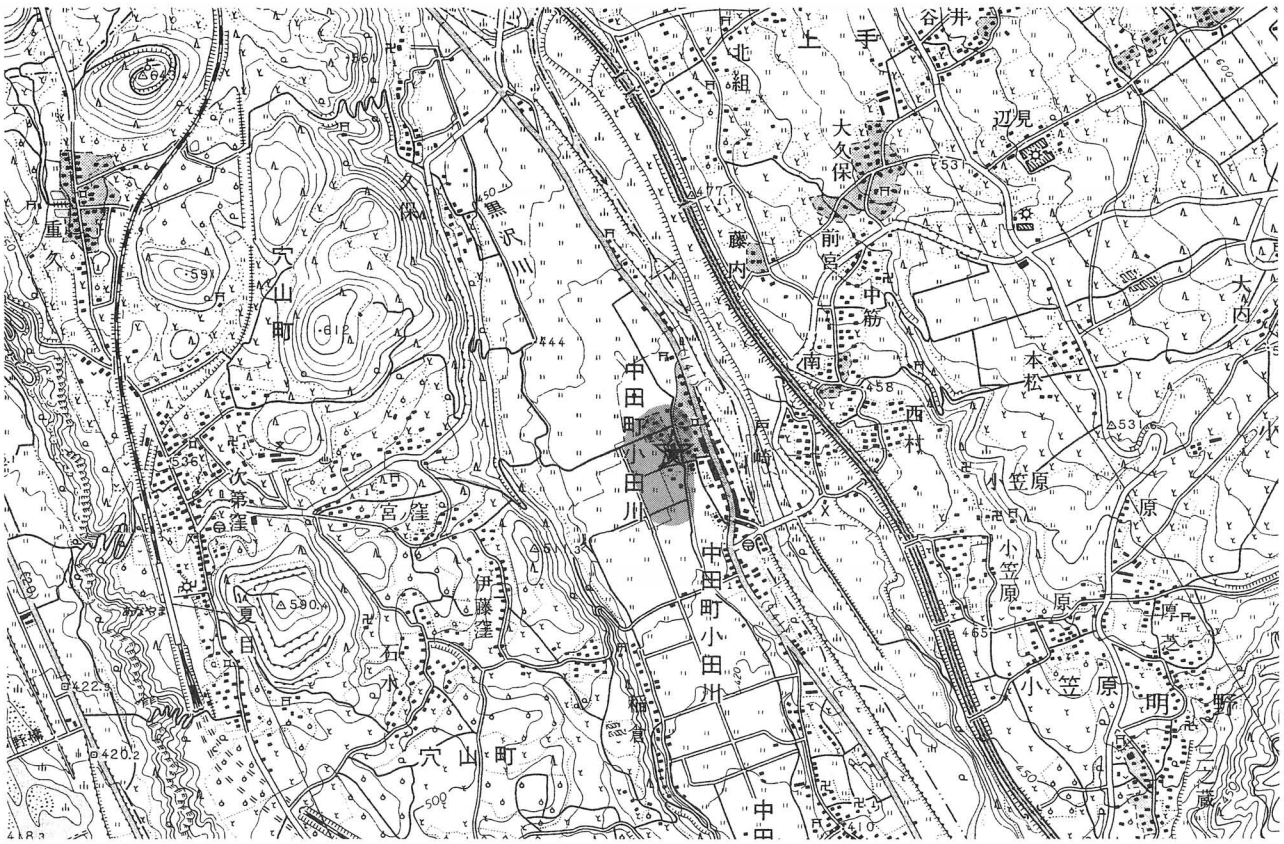
ピット：溝及び１号竪穴住居跡よりも新しく掘削されたものである。ピット内からの遺物の出土はない。

３　所　見

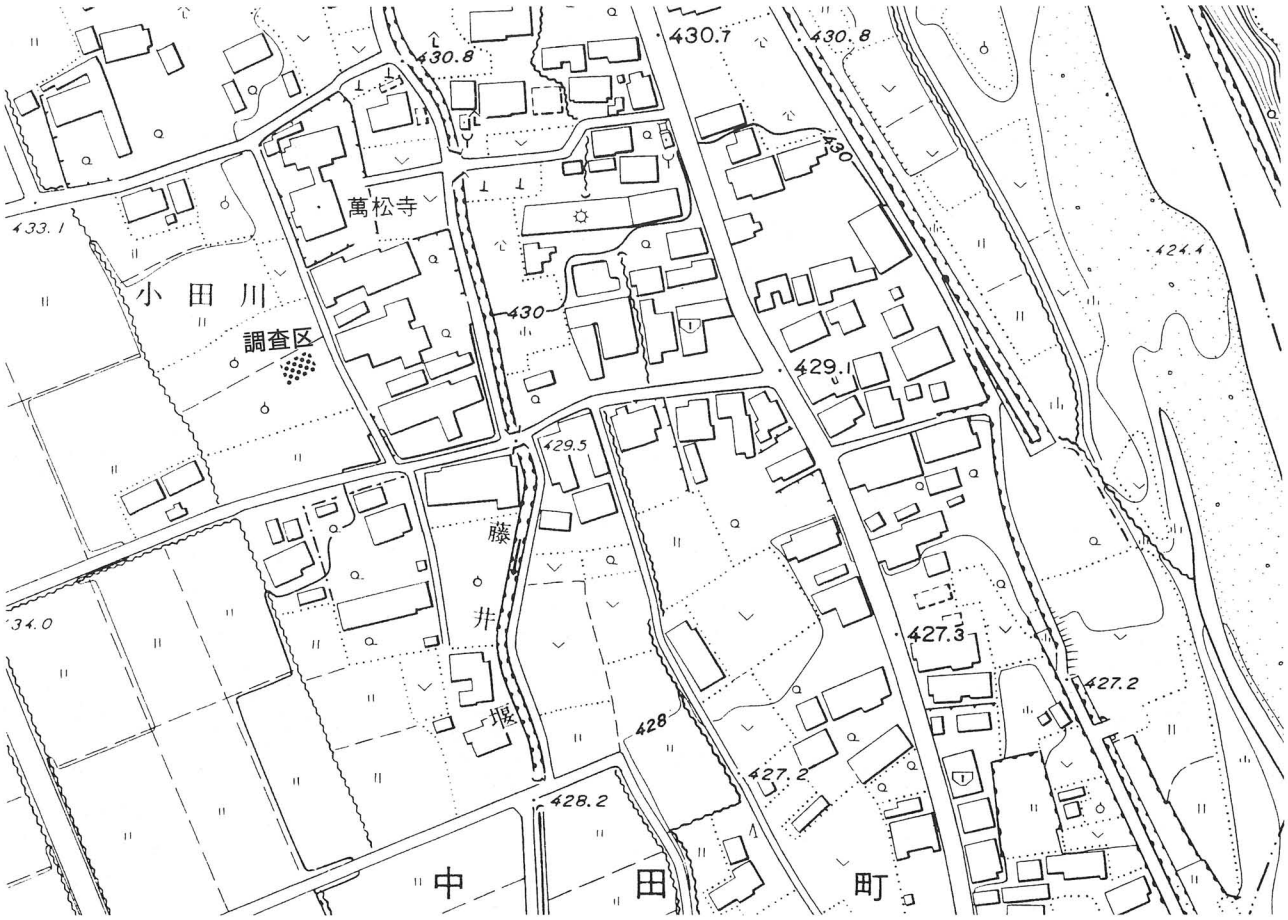
蓬田遺跡の発掘調査は今回が初めてである。包蔵地内から表採できる遺物の様相から平安時代の遺跡であることはすでに知られていたが、45m²という狭小な調査面積にもかかわらず竪穴住居跡２軒という密度の高さである。これは蓬田遺跡に平安時代の村が埋蔵されていることを示す。また、現在の小田川の集落が塩川氾濫原の微高地上にあることとも関連し、当地が平安時代から塩川筋の居住地としての条件を満たす一つであったことが窺い知ることができる。当遺跡の南には宮ノ前遺跡といった寺院跡を伴うような集落跡の発見があり、また水田跡も確認されている。蓬田遺跡においても、平安期に村の信仰の場としての寺院跡や耕作地が周辺に存在しているものと考えられる。

今回の発掘調査で出土した資料は少ないが、平安時代の村の様子を知る為の資料を提供している。これも地権者の方のご理解とご協力によるものであります。

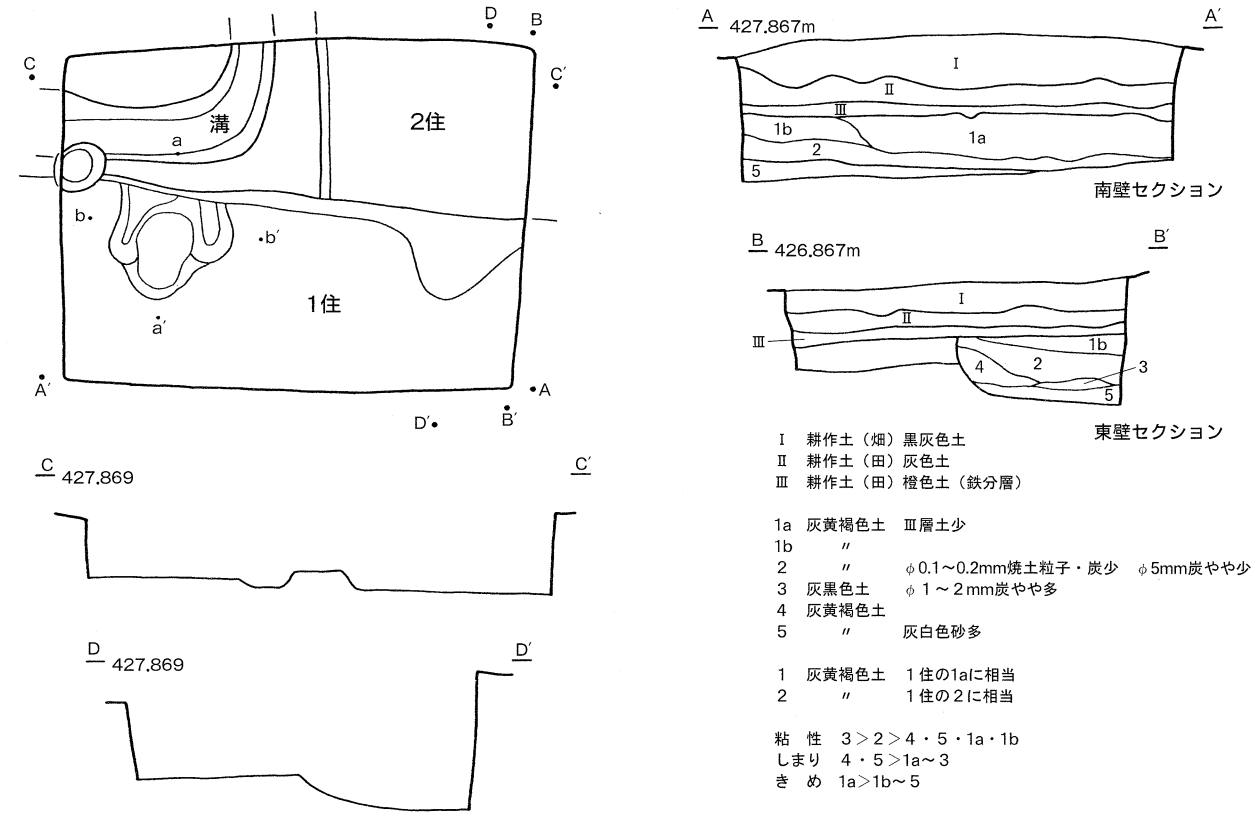
なお、調査写真などについては紙面の都合上、『平成12年度韮崎市内遺跡埋蔵文化財有無確認調査報告書』で報告したもので換えさせていただきます。



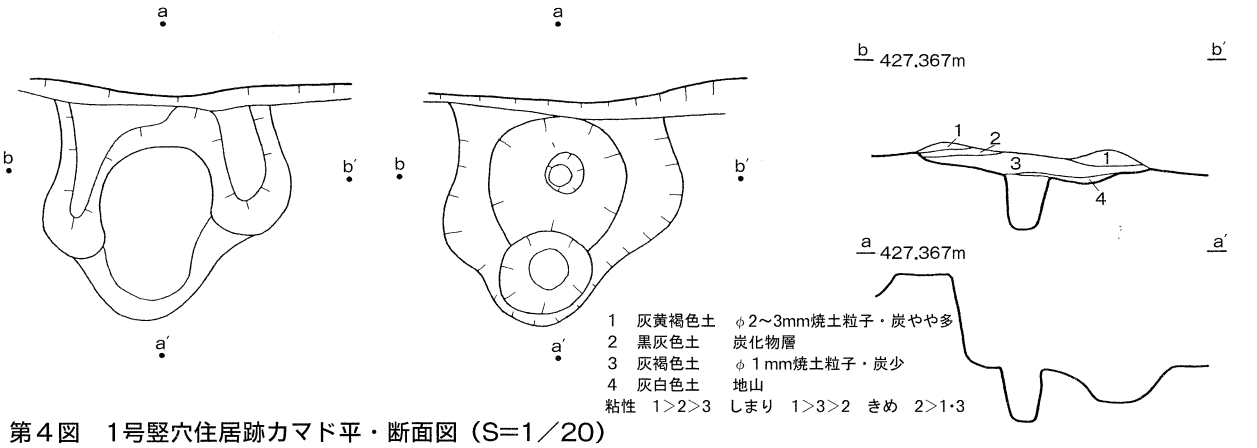
第１図　蓬田遺跡位置図（S=1／25,000）



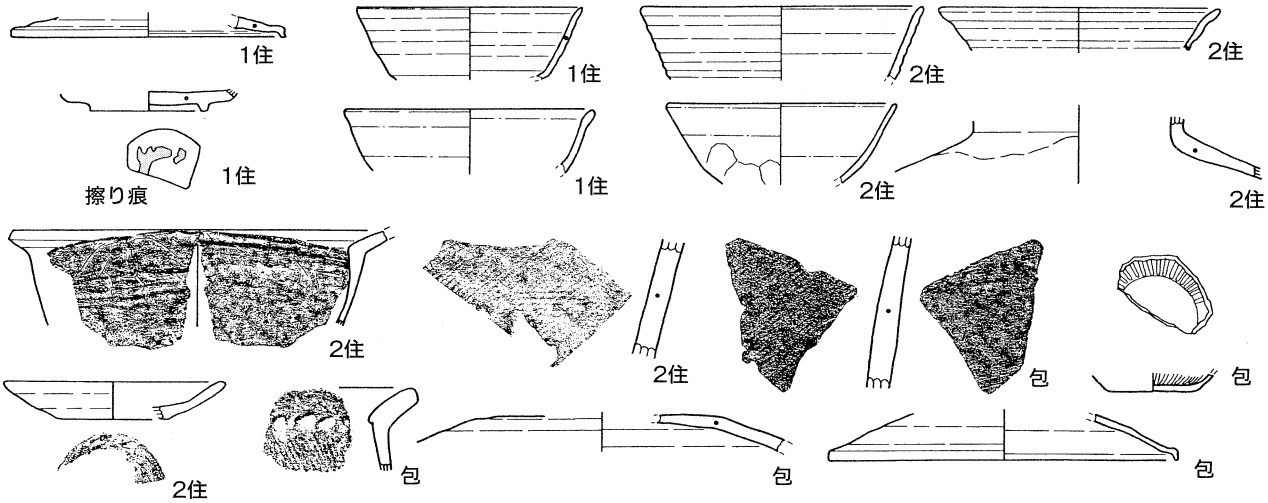
第２図　蓬田遺跡調査位置図（S=1／2,500）



第３図　１・２号竪穴住居跡平・断面図（S=1／40）



第４図　１号竪穴住居跡カマド平・断面図（S=1／20）



第５図　１・２号竪穴住居跡出土遺物

第４章　　ま　と　め

平成13年度に韮崎市内で遺跡の有無確認調査が行なわれた箇所は、179地点であった。
ここ数年、韮崎市の土地開発は、韮崎駅周辺から郊外へと急激に拡大している。その結果、遺跡の有無確認調査の実施箇所も市内全域に広がり、各地域の特色ある歴史が解明されている。本年度の調査では、とくに藤井町（29ヶ所）、旭町（20ヶ所）、大草町（17ヶ所）、穂坂町（13ヶ所）、中田町（10ヶ所）で開発が多く行なわれている。

現在把握している遺跡の分布地に加え、こうした開発に伴う有無確認調査によって、遺跡の有無が新たに確認されていくことは、韮崎市の歴史を考える上で極めて有効な資料となる。開発関係者の方々の御協力のもとに成り立つ調査であることに感謝しつつ、今後、本市の歴史を考える上で大いに活用していきたい。

また発掘調査のなかでも、苗敷山山頂遺跡における平安時代の集落跡調査は、当時から続く山岳信仰のあり方を知る貴重な成果である。標高1000mを超える地に人々が生活していたという事実は、今回の調査で初めて確認された。今後、本格的な整理作業のなかで、より詳しい集落像が浮かび上がってこよう。

往時、豊かな自然のなかでうまれた我が市は、たゆまぬ発展のなかでその全域に特色ある歴史を育んできた。今後も環境と文化の共存する地域として発展していくために、本報告が一助となれば幸いである。

韮崎市内遺跡埋蔵文化財
有無確認調査報告書

平成14(2002)年3月29日発行

発　行　韮崎市教育委員会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神1－3－1
TEL 0551-22-1111(内224)

印　刷　有限会社 タクト